

令和5年度 兵庫県立伊川谷高等学校 学校評価

学校経営方針	夢の実現に向けて努力する生徒の育成 —— 地域に愛され、地域に貢献する伊川谷高校 ——	
スクールミッション	「自主 協同」の理念のもと、目標を設定し、その実現に向け、自分をよりよく変えようとする意欲と、他者と関わり、自分の役割を自覚し、その役割を果たそうとする責任感を備え、夢の実現に向けて努力することのできる人材を育成する。	
重点項目	① 学ぶ意欲を引き出し、確かな学力を身につけさせる授業づくり	⑥ 質の高い教育活動を支える効率的な業務の推進
	② 夢と主体性を育む体験活動の充実	⑦ 夢を見つけ、育て、実現に導く進路指導・キャリア教育の充実
	③ 一人一人が輝く教育の推進	⑧ 友人と高め合い、周りの環境をよりよきようにする主体性を育てる生徒指導
	④ 積極的な情報発信と開かれた学校づくり	⑨ 部活動の充実
	⑤ ふるさと貢献活動やボランティア活動の推進	⑩ 発展的統合に向けた適切・円滑な準備

2024/3/1

領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	R5評価	今年度の達成度と次年度目標	分掌	
総務・生徒指導・保健・進路	魅力発見！	④ 開かれた学校づくり	1	・学校案内の工夫 ・オープンハイスクール・学校説明会を通じた魅力発信	3.7	中学校訪問(予定の学校は全て訪問)を通して本校の特色を伝え、またオープンハイスクールや学校説明会、部活動の外部発表を通して、生徒主体の生き生きとした活動の様子を広く伝えることができた。特にコミュニケーション型型は、体験的活動を中学生に紹介した。これらの経験を生かしながら新しい学校の広報活動にも協力していきたい。	総務	
		⑥ 校内組織の円滑・効果的な運営	3	・会議の工夫 ・防災マニュアルの見直しと活用	3.4	職員会議資料のデジタル化、防災マニュアルの見直しなどから、業務の効率化、防災意識の徹底をはかった。また、防災については研修会を丁寧に行い、マニュアルの見直しを検討した。防災部分が手薄なため、次年度は1回以上の防災研修を実施し、マニュアルにも盛り込む。		
		② 体験活動の充実	3	・朝の読書活動の充実 ・総合的な探究の時間の見直し	3.1	朝の読書の定着を図りながら、校内コンペの実施、グーグルサイトの活用などから図書館の情報をより身近リアルタイムなものにした。さらに次年度の探究活動の実施に伴い、生徒の校内コンペを2回以上計画し、図書館だよりの発行回数を増やす(7回)。		
	未然防止・早期発見・早期対応	⑧ 生徒の主体性を育てる生徒指導	4	・あいさつ運動、登校指導 ・頭髪・服装指導、交通安全指導	3.1	教員間で服装等の指導について共通理解を図り、学校全体で取り組めた。(4回)今後は、自転車の安全な運転、マナーの向上(1回)、生徒主体(生徒会)のあいさつ運動の活性化についても指導した。来年度も服装・頭髪等指導は6回程度、交通マナー3回、あいさつ運動(朝の時間)を継続する。	生徒指導	
		⑧ 安心・安全な学校づくり	5	・授業や講演会などを通して、SNSの使い方についての指導	3.1	生徒を対象にSNSの使い方など外部講師による講演会を実施。コミュニケーション力の向上(人間関係のトラブル減少)が課題解決を職員全体で取り組んだ。来年度は講演会を1回実施、指導部長から3回の講話を考えている。		
		⑤ ふるさと貢献・ボランティア活動の推進	6	・清掃活動、神戸マラソンボランティア活動などへの参加	3.4	PTAに協力いただき、ふるさと貢献活動で清掃活動を実施した。(5回)夏季休業中の部活動も地域の清掃活動をした。(1回)来年度も引き続き、継続する。		
		⑨ 部活動の充実	7	・部長会議、部活動集会等	3.1	部活動については、長期休業前に充実した活動をするに加え、安全面の配慮やミーティングを発揮して学校全体を盛り上げるよう促した。(3回)来年度も同様に取り組む。		
		③ 一人一人が輝く教育の推進	8	・スクールカウンセラーの活用 ・昼食時の生徒の居場所の確保	3.5	教育相談の枠を増やしてもいい、可能な限り生徒や保護者、教員の相談に応じるようにしている。生徒向けに外部講師による講演会を実施した。教育相談27回講演会・職員研修4回。来年度も同様に行う予定。		
		③ 保健・安全指導	9	・保健だよりの配付	3.7	定期的な時期に応じた内容で保健だよりを配布した。(5回)来年度も同様に配布する。		
		③ 夢にチャレンジ	10	・進路希望の実現 ・進路希望調査	3.4	進路希望調査については、GoogleFormsを使って実施した。コロナやインフルエンザにより出席者が多く、全員の集計がまだできていない時間を要したが、全員に実施することはできた。次年度は5月までに全員の集計結果が出せるようにする。模試成績状況の教員間の共有をはかる。		進路指導
⑦ 進路選択の支援	11	・外部機関との連携により、公務員、就職希望者に向けてのセミナーをおこなう ・インターンシップ、ワークキャンプへの参加を促し進路選択に向けての支援をおこなう	3.1	公務員・就職希望者については、専門学校との協力を得て学科試験対策や面接対策などを月に1～2回のペースで実施した。次年度も同様に月1～2回のペースで実施する。また体験活動も看護体験(4名)、ワークキャンプ(7名)、県庁インターンシップ(1名)、警察へのインターンシップ(1名)への参加があった。次年度は10名以上の参加を促す。				
教務・情報	新たな前進	① 基礎基本、個に応じた指導	12	・効果的な少人数授業、IT授業の研究・提案 ・様々な授業形態の情報提供	2.8	選択科目において精選を行う。生徒のニーズを再度検討する必要がある。	教務	
		① 学力向上	13	・シラバスを作成し教室に掲示し、各教科の目標や評価基準を提示する。 ・「学びあい週間」を効果的に活用し、学習指導案作成などの工夫をして、お互いの授業のよいところを取り入れることに努める。 ・研究授業において、研究協議を行い授業を深める。 ・授業評価アンケートを実施し、授業改善につなげる。	2.8	少人数授業、習熟度別授業、チームティーチングの授業を実施している科目について、より効果的な講座内容を研究する。		
		⑥ 情報管理体制の確立	14	・校務支援システムの運用、出欠、成績管理、指導要録、調査書の作成を一括して行う環境を整える。 ・成績報告会の資料の統一。	3.3	「学びあい週間」を年2回実施し、授業を相互で評価できる環境づくりを進めている。ICTを活用した授業の工夫と業務改善を促している。伊川谷北高校との合同研修の実施を検討する。		
		① ICTを活用した授業に向けた取り組みの実践	15	・ICTの活用技能を高めるための職員研修会 ・業者と連携した「デジタル採点」活用に向けた研修会	3.0	学力向上委員会とあわせて、授業の充実に向けたアンケートや生活習慣の把握のためのアンケートを年度始めと夏休み明けの2回実施。		
		④ 本校の広報	16	・本校HPの定期的な更新	3.2	授業アンケートを1学期末と2学期末の2回実施。アンケートの項目やすべてで実施するかは検討が必要。		
		④ 本校の広報	16	・Webページに特色、学校行事、部活動等多様な情報を定期的に更新し発信する。	2.8	週報による出欠管理することで、生徒の正確な出欠の把握ができている。次年度も継続する。		
	学年経営	1学年(48回生)	⑧ 自ら気づく個、集団に	17	・軽微な失敗は容認し、失敗に対する振り返りと以後への改善について共に考える ・生徒への指示は最低限に抑え、極力生徒自身が考え行動できる場を設定する。注意・指導は言葉による感覚からではなく視覚情報も活用することで、生徒自身が場の雰囲気を感じやすい状況を生み出す。	2.9	中学校から高校になり行動範囲も広がる中で、善悪の判断がなかなかついていない生徒もいた。中学三年間をコロナ禍で過ごした生徒もいるため、いろいろな面で厳しさを体感せず、今に至る生徒も多量と推察する。学年内での日々の行動と様々な活動から、「先の自分」を想像できる生徒の育成を今後目指していくこととする。	1学年(48回生)
			① 豊かな生き方に向けた学びの充実	18	・読み書きをメインに、今一度朝読書の実施を徹底するとともに、毎週の朝中高生新聞を活用し、活字を読む機会を増やす。 ・行事の感想やまとめ学習にはがき新聞を活用することで、文章力の向上とともに視覚情報を用いた表現力の向上を目指す。 ・年2回、はがきを書いて実際に投函することで、社会通念上の必要となる知識を体験より獲得する。	3.1	NIE実践やほか新聞などの体験型の授業が、社会状況を知るきっかけとなり、自己の表現力やコミュニケーション力の向上に役立った。特にはがき新聞の活用は、決められた紙面に伝えたい内容を自ら考えてまとめるため、「相手」を伝える、主眼が置かれた表現が生徒の多く身につくにつれて、今後は、これらの内容をより実践に移していくため、ほか新聞の活用機会と表現内容にまで踏み込んでいくこととする。	
			⑦ 主体的な進路選択のできる生徒の育成	19	・学年通信の活用、進路ガイダンスの活用、大学見学の実施などにより、生徒自身が様々な『仕事』やそれに繋がる『進路』について学習する機会を多分に設定する。 ・グローバル社会における日本の役割を、技能実習生との交流を通して学び、自身の進路決定に活かす。	3.2	次年度も引き続き学年通信や朝中高生新聞を毎週配布することで、学校生活や社会常識についての意識向上に努める。さらに、従来の進路ガイダンス(お見合方式別別ガイダンスなど)の開催も、より幅広い視野での進路選択に向けて学年で取り組んでいく。やさしい日本語の学習を活用し、多文化共生について考える機会を1回以上設ける。	
		⑧ 自ら考え行動できる生徒の育成	20	・自分を大切にすることは、他人や全体にも良い影響を及ぼすことを理解させ、実践できるようにする。	2.9	学校行事・部活動については積極的に取り組んだ。修学旅行で途中離脱や感染症の発症者、大きな怪我もなく無事に帰郷できたことは素晴らしい事であったが、その成功体験から次のステップとつながりきれない。各行事で活躍してくれた生徒たちを全体のリーダーとして育てる準備で先頭を走り抜けるよう育成を進めたい。学習や進路実現に向けて困難な事でも覚悟を決め前向きに取り組もうとする意識が低い者がまだかなりの割合でいるようである。		
2学年(47回生)	① 好奇心を持ち、貪欲に求め、学ぶ生徒の育成	21	・多様な情報源から自らの進路に必要なものを選び、タブレット端末などを活用しながら学びを深めさせる。	3.0	スマホをはじめとする時代の先端機器を所持していないが、将来に向けての情報収集のツールとしての役割は不十分なのである。もっと多くのものに好奇心を持ち、自ら調べる姿勢を持っていくことが大切である。また、授業でも積極的に発言し、自分の望む将来像に近づけるために、何をすべきかを年次別に探求させ、身近な目標到達を繰り返すことで自分自身に近づけるようさせるための調べ学習の時間を進路HRで複数回取り入れる必要があると考える。	2学年(47回生)		
	⑦ 進路実現に向けて努力できる生徒の育成	22	・大学見学会や分野別進路相談会の実施を通し、個の特性に応じた進路開発を目指す。	3.0	年間2回ほど行っている進路別ガイダンスや講演会などは興味をもって参加し、各校の方からは「すごく熱心に話を聞いてくれた」と好評である。その後質問や見学会に何度も参加する生徒も何人かは出てきたようである。学習面でも頑張っていた生徒もいるが、その頑張っている姿が周りになかなか伝わりづらく、補習等を積極的に受ける者の学力を、目に見る形で伸ばしていくことが重要であると考える。また長期休暇中の補習参加率を大学進学予定者の6割以上を目指し、参加を啓発していく。			
	⑧ 互いに思いやり、尊重し合う	23	・集団の中でそれぞれがルールを守り生活することが、自分を大切に、お互いのことも大切にできることを実感させる。 ・学校行事に全員で取り組むことで、お互いを尊重しあい、向上しあう存在を目指す。	2.9	ほとんどの生徒がルールを守り、お互いを尊重しあい、日常を大切にできていた。その反面、ルールを守ること、時間を守ることが学校生活だけでなく、これから社会の一員として生活するときも非常に大切であるということが最後まで伝わらなかった生徒が一定数いた。			
3学年(46回生)	⑦ 設定した進路目標の実現に向けて	24	・学ぶ姿勢や努力がこれからの人生に大きく生きていくことを意識させながら、進路実現に向けての自主的な行動ができることを目指す。	3.1	進路実現に向け頑張っている生徒がいるが、進路決定した生徒の意識や取り組みの二極化がどんどん広がっていた。数年後、数十年後を想像する機会をも少し増やし、今の自分を考え行動させるよう促す必要がある。	3学年(46回生)		
	② 社会に通じる心豊かな人間性の育成	25	・18歳成人を意識した講演会・講座の実施	2.9	1年次より、内容の濃い講演会で貴重な話や経験を聞き、自分事として考え行動できた生徒が多かった。そこから社会の一員である自分につなげ、責任ある行動のできる大人を目指してほしい。			
	⑥ 定時退勤日と「ノー残業デー」「ノー部活動デー」の推進	26	・定時退勤日の効果的な活用 ・年休の計画的取得	2.8	毎週月曜日を「一部活動デー」「ノー残業デー」に設定したが、積極的に呼びかけられることが少なかった。次年度からは、職員室の見える所にプレートなどを貼り、視覚的にも意識できるようにする。また、時間単位での休暇取得など引き続き制度活用を進める。			
働き方改革推進	教頭	⑥ ICTの効果的な活用による校務の効率化の工夫	27	・朝の打合せや職員会議時間の短縮	3.2	職員会議の資料を各自のPCから閲覧する方式でペーパーレス化を実現した。今後は、ガレージの活用による更なる時間短縮を図り、校内のアンケートや提出資料については、必ずしもメールなどを利用して100%ペーパーレス化を進める。短縮時間を利用したミニ研修会を年間8回実施する。次年度からは、生徒欠席連絡アプリを導入し、朝の連絡や準備等の時間を確保できるよう業務改善を図る。	働き方改革推進	
		⑩ 発展的統合に向けた適切・円滑な準備	28	・定期的な会議、打ち合わせを行い、情報共有を緊密に行う。 ・教職員向けにアンケートをとったり、意見聴取の機会を設け、職員の見解、アイデアを募る。 ・進捗状況について、適宜職員会議などの場で提供する。	3.0	定期的な実務担当者会議を開き、教職員や生徒などのアンケートなどから新しい学校の内容を検討し、実施計画も確認した。今後も発展的統合に向けた準備を進めていく。教職員への情報提供の機会を設け、年3回の学校間交流を実施する。		

★学校関係者評価結果(学校評議員からのご意見)

- ・SNSの使い方についてのトラブルが起きていることなどをふまえ、「伊川谷高校いじめ防止基本方針」の不断の検証見直しの必要がある。
- ・授業アンケートは、大学では必須になっている。高校でもさらに組織的に取り組み授業改善に生かしてほしい。今年度と次年度、1年生から2年生、2年生から3年生と、比較する。
- ・評価の観点にある「基礎基本、個に応じた指導」というのは、伊川谷高校の強みであるはずが、評価ポイントが低い。アンケート結果をもとに授業改善に繋げることが重要。
- ・地域での行事がコロナ前に戻りつつある。土日はぜひ、ボランティアなど積極的に参加してほしい。アプリなどで募集はできないだろうか。
- ・令和7年度からの発展的統合により、新しい学校としてエリアが広がる。魅力ある学校になるよう応援していきたい。